

目的 衣服を着用する時に 着心地が悪いとか 形くずれがするとか問題のある衣服はその大半がパターンの良否によることが多い。中でも胸部の衣服重量の殆んどがかかる肩部における適合具合は 外観判定の上からも重要な要因になる。これらから人体に適合させるためのパターンを作図するために、一つの試案をたて 様々の角度から実際に衣服を製作し その適合度を検討した。

方法 被験者に20才・30才・40才・50才台の様々な体型をもつ10名を選び、傾斜計・シルエッター並びに我々の考慮したフィルム状のプラスチック板で作成した肩傾斜角度計によりそれぞれの肩角度を求めた。ついでこれら角度をもとにシーチングの布地を用いて 肩からウエストに至る実験衣を試着し検討を行なった。

結果 シルエッターによる左右の肩を前面と後面からとり、それぞれを足して2で割った角度と 傾斜計による角度との間には大差はみられなかったが プラスチック板による肩傾斜角度計を用いた場合 前面、後面とも体表面から肩線に至る人体の複曲面も含んで測定出来るため 着用した場合 もっとも適合度がよかった。また傾斜計による肩角度と比較した場合かなりの差がみられた。